

第31回 通常総会議案

令和3年5月20日



一般社団法人ダム工学会

— 目 次 —

議案 1 令和 2 年度事業報告	1
議案 2 令和 2 年度収支決算報告	1 9
議案 3 令和 2 年度会計監査報告	2 2
議案 4 理事選任 (案)	2 3
議案 5 監事選任 (案)	2 4
報告 1 令和 3 年度事業計画	2 5
報告 2 令和 3 年度収支予算	2 9
報告 3 評議委員の紹介	3 1
報告 4 令和 2 年度ダム工学会賞受賞者	3 2

令和2年度 事業 報 告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

令和2年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、事業計画について必要な見直しを行いつつ、会員各位の協力のもとに、広報活動、学術講演会、研究発表会、講習会、各地区現場見学会、ダムなんでも相談室、with Dam★Night 2020、ダム工学会賞の選定と表彰等について、WEB会議システムを活用した開催、延期・中止などの対応・措置を講じた。学会誌「ダム工学」を発行するとともに、一般の方がダムに関する情報を容易に得られるようダム工学会ホームページを運用した。

調査研究委員会では、7つの研究部会の下、研究活動を行った。交流研究事業3テーマを継続実施した。「ダムの役割と操作～豪雨時の備えと次の一手～」及び「ダムの環境保全～プラス思考の土砂管理～」と題する一般の方向けにわかり易く解説した2動画をダム工学会ホームページ上に公開した。また、近年、大規模洪水が頻発する中、ダムの効果を即時的に情報開示する、並びに事前放流の洪水調節効果をさらに高める方策に関する研究に着手した。

会員数は、令和2年度末現在、正会員・シニア会員は792名、学生会員は95名、賛助会員は51社となり、令和元年度に比べて、正会員・シニア会員は20名の減少、学生会員は9名の減少、賛助会員は1社の増加となっている。

各事業の実施については、各委員会、研究部会により安全で適切に行われた。また、会員各位の積極的な活動に支えられた。

1. 委員会等活動報告

(1) 通常総会

令和2年5月に通常総会（書面会議）を開催し、令和元年度事業報告及び収支決算、理事選任について承認を得るとともに、令和2年度事業計画及び収支予算について報告を行った。

○ 第30回 通常総会

日 時 : 令和2年5月

会議方法 : 書面会議

回答者 : 468名（うち委任状による回答者316名）

議 題 : 令和元年度事業報告及び収支決算、会計監査報告

理事選任

報 告 : 令和2年度事業計画及び収支予算

(2) 理事会

以下の通り理事会を開催した。

○ 第78回 理 事 会

日 時 : 令和2年4月

会議方法 : 書面会議

議 題 : 第30回通常総会議案について

- 第79回 理事会
 - 日 時 : 令和2年6月
 - 会議方法 : 書面会議
 - 議 題 : 会長・副会長の選出について
顧問の選出について
ダム工学会表彰委員会委員選出について
ダム工学会選考委員会委員選出について
理事の委員会委員委嘱について

- 第80回 理事会
 - 日 時 : 令和3年3月19日
 - 場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)
 - 議 題 : 令和3年度事業計画 (案) について
令和3年度収支予算 (案) について
 - 報 告 : 令和2年度事業執行状況について
会員数の推移について
ダム工学会通常総会までの主な日程と予定

(3) 評議委員会

以下の通り評議委員会を開催した。

- 第41回 評議委員会
 - 日 時 : 令和2年4月
 - 会議方法 : 書面会議
 - 議 題 : 令和2年度 理事推薦 (案) について
令和2年度 評議委員 (案) について
第30回通常総会議案について

(4) 委員会等活動

事業活動を推進するため、企画運営委員会及び各小委員会、編集委員会、調査研究委員会、ダム工学会賞の関係委員会を以下の通り開催した。

1) 企画運営委員会

- 第88回 企画運営委員会
 - 日 時 : 令和2年4月
 - 会議方法 : 書面会議
 - 議 題 : 第30回通常総会議案について

- 第89回 企画運営委員会
 - 日 時 : 令和3年2月12日
 - 場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)
 - 議 題 : 令和3年度事業計画 (案) について
令和3年度収支予算 (案) について
 - 報告等 : 令和2年度事業執行状況について
ダム工学会通常総会までの主な日程と予定

- 各小委員会の活動内容

① 総務小委員会

通常総会、理事会、評議委員会及び企画運営委員会の運営に関する企画・立案・実施、会員情報の管理、学会会計（会費の徴収を含む）の報告を行った。

- ② 学術研究発表会小委員会
特別講演会及び研究発表会の運営に関する企画・立案・実施を行った。
- ③ 講習会小委員会
講習会の運営に関する企画・立案等を行った。
- ④ 現地見学会小委員会
現地見学会開催に関する企画・立案等を行った。
- ⑤ 広報小委員会
学会及び学会行事の広報に関する企画・立案・実施を行った。また、ホームページの更新、メルマガ配信サービスにより情報提供を行った。
- ⑥ 活性化推進小委員会
ダム工学会の活性化推進方策の検討や、with Dam★Night 2020、各地区活動・ダムなんでも相談室・若手の会の運営に関する企画・立案・実施を行った。

2) 編集委員会

「ダム工学」発行のため、編集委員会を計3回開催した。4月の編集委員会は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止した。

- 第122回 編集委員会
日 時 : 令和2年7月21日
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室
議 題 : 学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について
- 第123回 編集委員会
日 時 : 令和2年10月23日
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室
議 題 : 学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について
- 第124回 編集委員会
日 時 : 令和3年1月8日
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)
議 題 : 学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について

3) 調査研究委員会

- 第1回 調査研究委員会
日 時 : 令和2年8月3日 13:30～
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)
議 題 : 事業報告内容の確認
(コンクリートダム、フィルダム、地質・基礎、維持管理、施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会)
交流研究事業の状況報告、令和2年7月豪雨に対するダム工学会の対応について

- 第2回 調査研究委員会
日 時 : 令和2年12月23日 10:00~
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)
議 題 : 事業報告内容の確認
(コンクリートダム、フィルダム、地質基礎、維持管理、施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会)
交流研究事業の状況報告、理事会等への部会報告の依頼について

4) ダム工学会賞の関係委員会等

- 令和元年度 ダム工学会賞表彰式
令和元年度 ダム工学会賞表彰式は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、5月開催を延期した後、中止した。表彰状等は、受賞者へ郵送した。
- 令和2年度 選考委員会
日 時 : 令和3年2月19日 13:30~
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)
議 題 : 技術賞の授賞者選考
功績賞、技術功績賞、論文賞、著作賞の各候補者選考
- 令和2年度 表彰委員会
日 時 : 令和3年3月8日 13:30~
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)
議 題 : 優秀発表賞、技術賞の授賞者選考経過報告
功績賞、技術功績賞、論文賞、著作賞の授賞者選考

2. 行事活動

(1) 研究発表会（学術講演会と合同開催）

- 令和2年度 研究発表会
日 時： 令和2年11月19日 10:00～12:00
開催方法： オンライン中継
聴講者数： 最大120名アクセス
発表論文数： 4編
優秀発表賞： (優秀発表賞選考委員会での選考)
独立行政法人水資源機構 長良川河口堰管理所 環境課
主査 田中 幹大 氏
『長良川河口堰におけるAI技術を活用した
アユ遡上数自動計数システムの構築』



ダム工学会 小長井会長により開会挨拶



水資源機構 田中氏による発表



優秀発表賞選考委員会乗京委員長による
優秀発表賞の発表、閉会挨拶

(2) 学術講演会（研究発表会と合同開催）

○ 第30回 特別講演会

日 時 : 令和2年11月19日 13:00～15:20

開催方法 : オンライン中継

講 演 : 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
　　流水管理室長 津森 貴行 氏
『ダム管理における最近の取り組みについて』

京都大学 防災研究所 水資源環境研究センター
教授 角 哲也 氏

- ①『ダム堆砂対策の促進に向けて（提言）』
- ②『ダムに関する動画作成
（ダムの役割と操作編／ダムの環境管理編）』
- ③『大規模洪水に対するダム工学会の貢献
（ダム大規模洪水対応WG）』

聴講者数 : 最大120名アクセス



ダム工学会 門松前会長による開会挨拶



国土交通省 津森流水管理室長による講演



京都大学防災研究所 角教授による講演

(3) 現地見学会

新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止した。

(4) 講習会

新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止した。

(5) 活活性化関連活動

- 令和2年度 北海道地区現場見学会（北海道土木技術会との共催）
- 令和2年度 東北地区現場研修会
- 令和2年度 中国・四国地区現場研修会
- 令和2年度 九州地区現場見学会
- with Dam★Night 2020
- with Dam★Night in 仙台 2020
- with Dam★Night in Kyusyu
- ダムなんでも相談室

新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、以上中止した。

- 第7回 ダムを知るための若手技術者勉強会
 開催日：令和3年1月18日 13:00～17:00
 開催方法：オンライン中継
 概要：ダム事業で貢献できるSDGs（持続可能な開発目標）についてオンライン講演を行った。
 参加者数：72名（学生39名）

第7回 ダム工学会 若手の会 ダムを知るための若手技術者勉強会開催のお知らせ

～ダム事業で目指す！SDGs（持続可能な開発目標）の達成～

ダム工学会 若手の会では、土木工学を学ぶ学生・若手技術者の皆様を対象にダムの魅力を知つてもらうため、勉強会を開催いたします。

平年では実際にダムの現場に行き、見学を通してダムの知識を深めて頂いておりますが、今年度は新型コロナウィルスの流行により、オンライン上での勉強会を実施することにしました。

今回の勉強会では、2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGsをダム事業に絡め、SDGsの各ゴールに対してダム事業が貢献できることを学び、持続可能性という観点からダム事業について知見を深めていただきます。

当日は、現場でダムの管理を行うダム管理者をはじめ、ダムの設計を行う建設コンサルタント、ダムの新技術の携わる研究者等幅広いジャンルの職種、かつダム業界の最前線で働いている若手の会実行委員の話が聞けるので、様々な視点からダム事業を学ぶことのできる絶好の機会だと思います。

また、質問コーナーを設けるので、お気軽にダムについての疑問に思うところや、気になるところをご質問頂ければと思います。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

SDGsとは

SDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



出典：外務省ホームページ公表パンフレット

ダム工学会は「技術現場からの研究課題の発掘と研究成果の社会への速やかな還元」を活動の目標としてさまざまな活動を行っています。本見学会はこの一環であり、土木工学を学ぶ学生や若手のダム技術者を対象としております。

【若手技術者のためのダム勉強会の趣旨】

- ❖ ダム見学・講演を通して、ダム事業の目的や効果、ダムの構造や施工、管理の方法など、様々な視点からダムについて学ぶ場を提供します。
- ❖ ダム見学やダム事業に関わる先輩技術者との対話をとおしてダムに関わる仕事の魅力を紹介します。
- ❖ 学・官・民の若手技術者の連携・交流を深める場を提供し、ダム工学に関わる技術者の活性化を促します。

◆勉強会開催要項

- ①開催日：令和3年1月18日（月）
- ②募集人数：80名まで（ダム工学会会員以外の方も参加可能です。）
- ③申込期限：**令和3年1月18日（月）** ※定員に達し次第、締切
- ④申込方法：下記のダム工学会 若手の会参加申込URLより
参加申込フォームに必要事項をご入力し、申込み下さい。
http://www.jsde.jp/kassei/kassei_R2wakate_anna%20.html
※申込み後、メールにて参加のご案内をさせて頂きます。
- ⑤日程（案）：別紙1を参照してください。
- ⑥勉強会中の質問方法：当日の質問は「slido」にて受け付けます。
下記URLより「slido」にアクセスしメールにてご案内したコードを入力し、ご参加下さい。「slido」の操作方法は別紙2を参照して下さい。
<https://www.slido.jp>
- ⑦C P D：現在申請中です。登録が確認され、希望申請された方には別途ご案内致します。
【お問合せ先】TEL : 03-5815-4161 | FAX : 03-5815-4161 | MAIL : damko_wakate@jdec.or.jp
(一財)ダム技術センター内ダム工学会若手の会事務局



パンフレット

プログラム				
13:00~13:05 開会の挨拶				東京大学 川崎 昭如
テーマ1. 水環境とダムの基礎知識				6 お水を大切に 8 築きがいも 14 海洋資源を 15 緑のまちも
13:05~13:25 「SDGsと水環境」 (20分)				東京工業大学 藤井 学
13:25~13:45 「ダムの基礎知識と最新の施工技術紹介」 (20分)				(株) ニュージェック 新家 拓史
13:45~13:55 質疑・応答 (※Zoomチャットでご質問受け付けます)				
テーマ2. ダムで創り出す再生可能エネルギー				7 お水を大切に 11 おしゃれなまち 13 緑のまちも
13:55~14:15 「J-POWERの代表的な発電用大規模ダムの紹介」 (20分)				J-POWER 電源開発(株) 小林 夢三
14:15~14:35 「完成後のダムの未利用エネルギーを活用した水力発電設備の設置」 (20分)				八千代エンジニアリング(株) 中野 裕之
14:35~14:45 質疑・応答 (※Zoomチャットでご質問受け付けます)				
14:45~14:55 休憩				
テーマ3. 災害からダムで守る社会インフラ				9 お水を大切に 11 おしゃれなまち 13 緑のまちも
14:55~15:25 「水資源機構のダム管理について」 (30分)				(独) 水資源機構 中村 剛
15:25~15:35 質疑・応答 (※Zoomチャットでご質問受け付けます)				
テーマ4. ダム建設の新技術と 資源の有効活用				6 お水を大切に 8 築きがいも 9 おしゃれなまち 10 人と自然の循環
15:35~15:55 「CSGの可能性 一資源の有効活用の観点からー」 (20分)				東京大学 石田 哲也
15:55~16:05 質疑・応答 (※Zoomチャットでご質問受け付けます)				
16:05~16:15 休憩				
何でも質問コーナー				
16:15~16:45 何でも質問コーナー (30分) (※①Zoomチャット or ②Zoom挙手機能 でご質問受け付けます)				
16:45~17:00 閉会の挨拶 (勉強会総括)				東京大学 川崎 昭如

司会進行：(一財)日本ダム協会 中野 朱美

※勉強会中のZoom設定はカメラ・マイクをOFFにしてご参加下さい。ただし、何でも質問コーナーで発言による質問をされる場合に限り、ONにして頂いて構いません。

【お問い合わせ先】TEL: 03-5815-4161 | FAX: 03-5815-4162 | MAIL: damko_wakate@jdec.or.jp
(一財)ダム技術センター内ダム工学会若手の会事務局

プログラム



配信状況(1)



配信状況(2)

○ with Dam★Night at HOME

開催日：令和2年11月3日

開催方法：オンライン中継

参加者数：151名（チケット購入者数）

wDN プログラム		司会：夜雀
19:00	開会挨拶	
		ダム工学会 会長 小長井 一男
19:05～19:25	水資源機構川上ダムの現場見学	現場リポーター：dashelo
19:30～19:50	令和2年7月豪雨における木曽川上流ダム群の洪水時操作	中部地方整備局 木曽川上流河川事務所 高橋 裕輔
19:55～20:15	大阪府安威川ダムの現場見学	現場リポーター：夜雀
20:20～20:50	海外の排砂バイパス事例紹介	京都大学 防災研究所 水資源環境研究センター 教授 角 哲也 氏
20:55	閉会挨拶	京都大学 防災研究所 水資源環境研究センター 教授 角 哲也 氏



配信状況(1)



With Dam ★ Night at HOME

お家でダム

2020.11.3(火)

19:00 ➡ 21:00

チケット料金 500円



● With Dam ★ Nightとは

ダムとは、洪水対策や利水補給のための重要な社会インフラであり、多くの方々の協力の結晶として造られるものです。この意義を将来世代に引き継ぐため、ダムを愛する方々が交流する一夜だけのイベント、それがWith Dam ★ Nightです。

今年は3密を避けたリモート開催となり、魅力あふれる盛り沢山のダム情報を生配信予定です！チャットでツッコんだり応援したり質問したりもできます！

ダムファン、ダム初心者のみなさん、自宅でお酒やおつまみ、美味しい物を楽しみながら、ダムの世界をご堪能ください！

● With Dam ★ Night プログラム

19:00	開会 挨拶：小長井 一男（ダム工学会 会長）	19:55～20:15 大阪府安威川ダムの現場見学 現場リポーター：dashelo (ダムマイスター(一般) 01-032) コメント：19:25～19:30
19:05	19:05～19:25 水資源機構川上ダムの現場見学 現場リポーター：dashelo (ダムマイスター(一般) 01-032) コメント：19:25～19:30	20:20～20:50 海外の排砂バイパス事例紹介 角 哲也（京都大学防災研究所） コメント：20:50～20:55
	19:30～19:50 令和2年7月豪雨における 木曽川上流ダム群の洪水時操作 高橋 裕輔(中部地方整備局木曽川上流河川事務所) コメント：19:50～19:55	閉会 挨拶：角 哲也（京都大学防災研究所）

司会者：夜雀（ダムマイスター(一般) 01-003）
コメントディレクター：角 哲也（京都大学防災研究所 教授）
江原 審二（大阪府安威川ダム建設事務所 所長）
秋原 雅紀（ダムライター/ダム写真家）

高橋 裕輔（中部地方整備局木曽川上流河川事務所 所長）
佐々原 秀史（(独)水資源機構 関西・吉野川支社 副支社長）

※敬称略 ※プログラムは予告なく変更する場合があります。

● 景品について

今回は、ダムbingoの代わりとして、番組内でチャットでコメントを頂いた方のなかから抽選で、景品をプレゼントする予定となっております。
ぜひご参加ください！

※当選者は後日、ダム工学会のHPにて掲載予定です。
※チャット参加は11/3(火)の当日のみとなっております。

● 申込み方法

ツイキヤス有料配信チケット購入先↓
<https://twitcasting.tv/tokyoculture2/shopcart/30854>
上記URLにて、チケットの購入を行ってください。
11/17(火)まで何回でも視聴できます！

チケットご購入/配信視聴締切：2020年11月17日

※チケットはSNSアカウントなどで購入可能です。

一般財団法人 ダム技術センター内 ダム工学会 “With Dam ★ Night” 中部・近畿ブロック事務局

担当：木下 TEL: 06-6206-5701

E-MAIL: y-kinost@ctie.co.jp

担当：赤松 TEL: 06-6374-4379

E-MAIL: akamatsuts@newjec.co.jp

主催：一般社団法人 ダム工学会

後援：公益社団法人 土木学会・関西支部／一般財団法人 日本ダム協会／ダム工事総括管理技術者会／一般社団法人 建設コンサルタント協会・近畿支部

国土交通省 中部地方整備局／大阪府／独立行政法人 水資源機構関西・吉野川支社

協力：大林組・前田建設工業・奥村組・日本国土開発特定建設工事共同企業体(安威川ダム)

大林・佐藤・日本国土特定建設工事共同企業体(川上ダム)

パンフレット

3. 研究活動

(1) 研究部会

調査研究委員会の研究部会は、コンクリートダム、フィルダム、地質・基礎、維持管理、施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会の7部門から構成され、各研究部会において研究活動が行われた。

① コンクリートダム研究部会

研究テーマ「ダム管理期間としての第IV期設定について」、各編技術コラムの素案を作成しながら議論を重ね、技術コラム案を作成した。技術コラム案の完成を目指し推敲を行った。

○ 第1回 コンクリートダム研究部会

期日：令和2年5月22日

場所：メール審議

○ 第2回 コンクリートダム研究部会

期日：令和2年11月26日

場所：(一財)ダム技術センター AB会議室

② フィルダム研究部会

ダム型式（アースフィル、ゾーン型ロックフィル、表面遮水型）、新規建設・再開発（嵩上げ、耐震補強）、適用した設計基準（構造令制定の前後）、施工方法等を考慮して、代表ダムを選定し、個表により諸情報をとりまとめ、技術的変遷について分析を行った。

○ 第1回 フィルダム研究部会

期日：令和2年10月25日

場所：メール審議

③ 地質・基礎研究部会

「ダム（堤体、貯水池周辺斜面）の維持管理・再開発における地質調査に関する研究」について、既往文献に基づく事例研究とそのとりまとめを行った。また、新規研究テーマについて検討を行った。

○ 第1回 地質・基礎研究部会

期日：令和2年10月1日

場所：WEB会議

○ 第2回 地質・基礎研究部会

期日：令和3年1月25日

場所：WEB会議

④ 維持管理研究部会

「ダム堆砂の有効活用に関する事例研究」について、意見公募用の中間報告を作成し、意見公募をダム工学会HPで行った。また、三峰川総合開発工事事務所、下久保ダム管理所とWEB会議を行い、堆砂の活用促進に関する意見交換会を行った。また、部会報告用の素原稿を作成した。堆砂の有効活用について、提言を検討した。

- 第1回 維持管理研究部会
期日：令和2年9月下旬
場所：(一財)ダム技術センター
- 第2回 維持管理研究部会
期日：令和3年2月18日
場所：(一財)ダム技術センター

⑤ 施工研究部会

新規研究テーマ「ダムコンクリート強度試験の合理化」について、コンクリートの品質管理と品質検査に関する既存文献をレビューするとともに、近年施工されたコンクリートダム本体施工時の品質管理データ、品質管理方法を収集・分析し、強度試験の合理化の可能性について具体的な検討を進めた。

- 第1回 施工研究部会
期日：令和2年10月2日
場所：(一財)ダム技術センター
- 第2回 施工研究部会
期日：令和2年12月14日
場所：(一財)ダム技術センター
- 第3回 施工研究部会
期日：令和3年2月26日
場所：(一財)ダム技術センター

⑥ ダム技術史研究部会

技術的な分岐点となるダム技術史のとりまとめを行うとともに、出版に向けた調整を実施した。

- 第1回 ダム技術史研究部会
期日：令和2年10月13日
場所：(一財)ダム技術センター AB会議室
- 第2回 ダム技術史研究部会
期日：令和2年11月12日
場所：WEB会議

⑦ ダム貯水池課題研究部会

ダム再生に関する情報収集を行うとともに、部会報告の内容についてとりまとめを行った。また、当部会の下部組織として立ち上げた「ダム動画作成WG」と「ダム大規模洪水対応WG」の活動を行った。

【ダム貯水池課題研究部会】

- 第1回 ダム貯水池課題研究部会
期日 : 令和2年8月19日
場所 : (一財)ダム技術センター CD会議室
- 第2回 ダム貯水池課題研究部会
期日 : 令和2年10月26日
場所 : WEB会議
- 第3回 ダム貯水池課題研究部会
期日 : 令和2年10月29日
場所 : WEB会議

【ダム大規模洪水対応ワーキング】

近年、大規模洪水が頻発する中、ダムの効果を即時的に情報開示する、並びに事前放流の洪水調節効果をさらに高める方策に関する研究に着手した。

- 第1回 ダム大規模洪水対応ワーキング
日時 : 令和2年8月21日
開催方法 : 対面・WEB併用開催
- 第2回 ダム大規模洪水対応ワーキング
日時 : 令和2年10月7日
開催方法 : 対面・WEB併用開催
- 第3回 ダム大規模洪水対応ワーキング
日時 : 令和2年12月16日
開催方法 : 対面・WEB併用開催

【動画作成ワーキング】

- 第1回 動画作成ワーキング
日 時 : 令和2年4月28日
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室
- 第2回 動画作成ワーキング
日 時 : 令和2年6月9日
場 所 : (一財)ダム技術センター AB会議室
- 第3回 動画作成ワーキング
日 時 : 令和2年7月2日
場 所 : 所外
- 【公表】
日 時 : 令和2年9月1日 (一般公開)
「ダムの役割と操作～豪雨時の備えと次の一手～」及び「ダムの環境保全～プラス思考の土砂管理～」と題する一般の方向けに分かり易く解説した2動画をダム工学会ホームページ上に公開した。

	<p>一般社団法人ダム工学会 チャンネル登録者数 9人</p> <p>下記青字（再生時間）をクリックすると各章へジャンプします。</p> <ul style="list-style-type: none">1:01 ①ダムの役割10:01 ②ダム操作の概要12:14 ③大雨時のダムの役割や操作15:55 ④異常豪雨時のダムの役割や操作20:17 ⑤洪水調節機能を高める取り組み
<p>「ダムの役割と操作～豪雨時の備えと次の一手～」</p>	
	<p>一般社団法人ダム工学会 チャンネル登録者数 9人</p> <p>下記青字（再生時間）をクリックすると各章へジャンプします。</p> <ul style="list-style-type: none">2:10 ①ダムと河川環境8:26 ②日本の土砂環境とダム15:08 ③ダムの堆砂対策と土砂還元24:12 ④土砂還元の効果
<p>「ダムの環境保全～プラス思考の土砂管理～」</p>	

(2) 交流研究事業

「ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究」、「コンクリートダム躯体の健全度評価のための非破壊試験に関する研究」、「ダム下流への土砂供給によって形成される河床地形の物理－生態環境評価手法に関する研究」について継続した。

① ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究

研究者 法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科

溝渕 利明教授

研究フィールド 全国各地域から最近完成した 37 ダムを選定

② コンクリートダム躯体の健全度評価のための非破壊検査に関する研究

研究者 首都大学東京 都市環境科学研究所

大野 健太郎助教

研究フィールド 国土交通省関東地方整備局 湯西川ダム等

③ ダム下流への土砂供給によって形成される河床地形の物理－生態環境評価手法に関する研究

研究者 京都大学防災研究所 水資源環境研究センター

竹門 康弘准教授

研究フィールド 国土交通省中部地方整備局 小渋ダム等

4. 出版活動

学会誌「ダム工学」
令和2年度は、2回の会誌発行を行った。

VOL.30 No.2 令和2年 9月15日発行

論 文：4件

報 告：2件

部会報告：1件

VOL.31 No.1 令和3年 3月15日発行

論 文：6件

報 告：2件

部会報告：3件

学術刊行物認可

ダム工学

Journal of Japan Society of Dam Engineers

Vol.30 No.2

2020

118

会員あいさつ

新会長挨拶

巻頭言

ダムの近代化改修

論文

常時微動計測によるロックフィルダムの振動特性推定

ガスケット・充電ダム群のモデル化と洪水時操作の最適化の検討

ダムの動的解析による堤体と基礎地盤の相互作用に関する

理論的解釈および考察

長時間アシヤンブル降雨予測を用いた大型台風接近時における

効果的なダム事前放流方法の検討

ダムの地震被害実績に基づく今後のダム耐震性能照査の考察

同軸搭上げダムにおけるコンクリート打設実験

部会報告

GPSを用いたコンクリートダムの変位計測(Ⅱ)

現場たより

横瀬川ダム堤体内における大空間部のひび割れ抑制対策の取り組み

ダムコンクリート自動打設システムによる築川ダムの施工

意見・提言コーナー

治水対策とダム

一異常豪雨が頻発する中でダムの果たす役割

何等あるといふこと

一科学的同等性と法規的同等性

若手技術者の声

ダムと生活

小長井 男 105

中鶴 功 107

栗田 哲史 はか 110

西原 克哉 はか 120

永山 功 129

木戸研太郎 はか 138

佐藤 信光 149

福井 直之 はか 159

山口大学 はか 169

RCCダムの温度応力による内部拘束ひび割れの原因究明と対策

—ロックフィルダムにおけるTボウルの耐震補強に関する静的解析

或士蔵田における遮水性能の面的管理法の開発と適用事例

アースダムの充加速度への個別地盤のせん断弾性係数評価法の影響

GPSを用いたコンクリートダムの変位計測の影響

ロックフィルダムの安全管理を目的としたGPS変位計測の評価

中島伸一郎 はか 33

Impact of Gorakhi Earthquake on Nepal's Hydropower Projects:

a Review and Lessons Learned Tara Nidhi BHATTARAI et al. 64

巻頭言

水力発電を取り巻く環境変化への対応について

藤田 審司 はか 5

現体PSアンカによるTボウルの耐震補強に関する静的解析

川崎 秀明 はか 17

或士蔵田における遮水性能の面的管理法の開発と適用事例

坂本 博紀 はか 27

アースダムの充加速度への個別地盤のせん断弾性係数評価法の影響

山田 博相 はか 40

GPSを用いたコンクリートダムの変位計測の影響

中島伸一郎 はか 33

ロックフィルダムの安全管理を目的としたGPS変位計測の評価

中島伸一郎 はか 33

Impact of Gorakhi Earthquake on Nepal's Hydropower Projects:

a Review and Lessons Learned Tara Nidhi BHATTARAI et al. 64

論文

RCCダムの温度応力による内部拘束ひび割れの原因究明と対策

—ロックフィルダムにおけるTボウルの耐震補強に関する静的解析

川崎 秀明 はか 17

若齋PSアンカーを適用した川岸ダム基体基礎片警備工事

北村 広志 はか 88

巻頭言

GPSを用いたコンクリートダムの変位計測(Ⅲ)

山口大学 はか 112

ダム貯水池周辺の様々な課題整理について—ダム再生への取組—

ダム工学会ダム貯水池問題研究部会 122

現地たより

大きな貯水池による発電運用を維持しながら実施するナクムダム再開発工事の施工

山田 正人 はか 130

青山 雄 はか 136

コンクリート打設における生産性向上

永山 功 140

意見・提言コーナー

古河技術者の声

大きな貯水池による発電運用を維持しながら実施するナクムダム再開発工事の施工

山田 正人 はか 130

青山 雄 はか 136

外から見たダムの魅力

ダムはエコ・マイメント!

羽村 一玄 140

本の紹介

「水害列島 日本の挑戦 ウィズコロナの時代の地域温暖化への対応」

—黒瀬 高秀 150

JSDE

ダム工学会

JAPAN SOCIETY OF DAM ENGINEERS

JSDE

ダム工学会

JAPAN SOCIETY OF DAM ENGINEERS

VOL. 30 No.2 令和 2 年 9 月 15 日発行

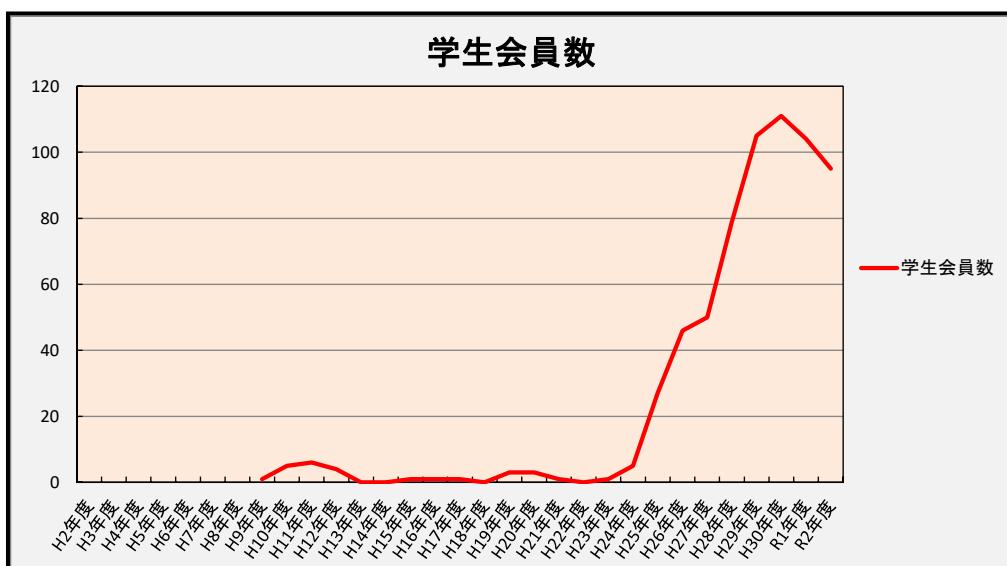
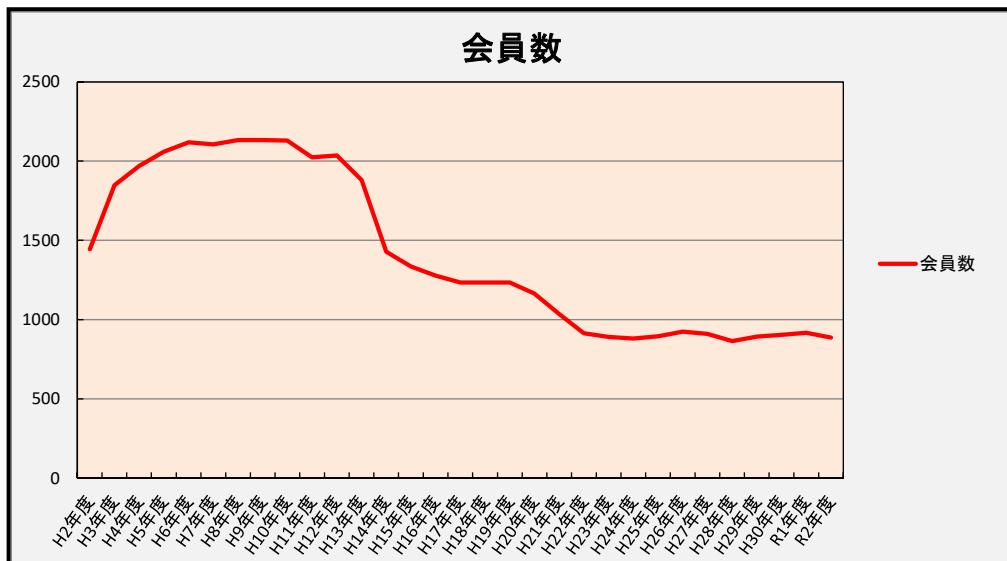
VOL. 31 No.1 令和 3 年 3 月 15 日発行

5. 会員入会状況

(1) 会員数等の推移

※会員数は年度末現在の値

会員種別	令和元年度	令和2年度	備 考
正会員	710名	693名	17名減
シニア会員	102名	99名	3名減
学生会員	104名	95名	9名減
合計	916名	887名	29名減
賛助会員	50社	51社	1社増



(2) 会員獲得等の主な取り組み

- ・若手の会で「第7回ダムを知るための若手技術者勉強会」を開催し、参加した学生に入会を呼びかけた。
- ・学生会員を対象に通常総会案内を通じて正会員への移行を呼びかけた。

議案2

令和2年度 収支決算報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 会費収入 (①～④計)	10,790,000	10,749,725	40,275	
①正会員会費	3,600,000	3,379,725	220,275	567口(手数料¥22,275差引)
②学生会員会費	0	0	0	
③シニア会員会費	190,000	720,000	△ 530,000	3万(16口)+4万(6口)
④賛助会員会費	7,000,000	6,650,000	350,000	133口
2. 事業収入 (①～⑦計)	2,425,000	21,840	2,403,160	
①総務小委員会収入	370,000	0	370,000	総会後の懇親会中止
②研究発表会収入	200,000	0	200,000	WEB開催による減(プログラム代)
③現地見学会収入	1,215,000	0	1,215,000	現地見学会中止
④講習会収入	0	0	0	講習会中止
⑤表彰関係収入	0	0	0	
⑥活性化推進収入	640,000	21,840	618,160	
若手の会	150,000	0	150,000	WEB開催
ダムなんでも相談室	0	0	0	中止
北海道ブロック	170,000	0	170,000	現地見学会中止
東北ブロック	20,000	0	20,000	WDN中止
中部近畿ブロック	150,000	0	150,000	WEB開催
中国四国ブロック	0	0	0	中止
九州ブロック	150,000	0	150,000	WDN中止
With Dam Night 2020	0	21,840	0	会場使用料還付金
⑦調査研究収入	0	0	0	
コンクリートダム研究部会	0	0	0	
フィルダム研究部会	0	0	0	
交流研究事業	0	0	0	
維持管理研究部会	0	0	0	
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	0	0	0	
ダム貯水池課題研究部会	0	0	0	
交流研究事業	0	0	0	
3. 刊行収入 (①～④計)	1,001,000	1,104,074	△ 103,074	
①会誌一般頒布収入	296,000	188,000	108,000	
②会誌広告料	600,000	720,000	△ 120,000	
③抜刷別刷収入	75,000	98,000	△ 23,000	
④その他収入	30,000	98,074	△ 68,074	JAC著作権使用料等分配金
4. 図書出版事業収入	30,000	303,126	△ 273,126	フィルダムの変位計測に関するGPS利用マニュアル(国際航業㈱100部)、ダムの科学
5. 雜収入 (①～②計)	1,571,000	520,030	1,050,970	
①補助金収入	1,570,000	520,000	1,050,000	河川整備基金(¥520,000)
②受取利息	1,000	30	970	
小計 (1～5計)	15,817,000	12,698,795	3,118,205	
6. 前年度繰越金	18,350,130	18,350,130	0	
合計 (小計+6)	34,167,130	31,048,925	3,118,205	

(単位：円)

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 事業支出 (①～⑦計)	10,882,000	1,695,107	9,736,453	
①研究発表会支出	955,000	77,627	877,373	研究発表会・特別講演会同時開催
②現地見学会支出	1,455,000	880	1,454,120	現地見学会中止
③講習会支出	450,000	770	449,230	講習会中止
④表彰関係支出	1,210,000	876,068	333,932	表彰・選考委員会 経費
⑤広報支出	120,000	108,460	11,540	広報小委員会
⑥活性化推進支出	5,870,000	475,937	5,394,063	活性化推進小委員会
若手の会	1,450,000	39,050	1,410,950	WEB開催経費
ダムなんでも相談室	920,000	550	919,450	ダムなんでも相談室中止
北海道ブロック	700,000	550	699,450	現地見学会中止
東北ブロック	450,000	880	449,120	WDN中止
中部近畿ブロック	520,000	432,927	87,073	WEB開催経費
中国四国ブロック	300,000	770	299,230	現地見学会中止
九州ブロック	1,280,000	690	1,279,310	WDN中止
with Dam Night 2020	250,000	520	249,480	WDN中止
⑦調査研究支出	822,000	155,365	666,635	
コンクリートダム研究部会	31,000	3,165	27,835	
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	30,000	880	29,120	
維持管理研究部会	60,000	0	60,000	
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	1,000	880	120	
ダム貯水池課題研究部会	100,000	150,440	△ 50,440	動画作成WG 経費
交流研究事業	600,000	0	600,000	交流研究補助金
2. 刊行支出	2,900,000	3,431,878	△ 531,878	
①会誌作成費	2,900,000	3,431,878	△ 531,878	発送料含む
3. 図書出版事業支出	0	0	0	
4. 事務支出 (①～⑪計)	2,000,000	1,232,742	767,258	
①会場費	420,000	433,840	△ 13,840	研究発表会・特別講演会 会場費
②会議費	680,000	21,030	658,970	動画作成WG・研究発表会・特別講演会 経費
③印刷製本費	210,000	0	210,000	総会書面開催による減
④諸謝金	135,000	95,000	40,000	ダム工学 巻頭言・査読料
⑤消耗品費	0	0	0	
⑥通信費	100,000	167,544	△ 67,544	会費請求書 送付等
⑦支払手数料	60,000	169,162	△ 109,162	WEBバンク・口座振替手数料等
⑧旅費交通費	0	0	0	
⑨コンサルタント料	200,000	206,000	△ 6,000	会計顧問報酬・登記謄本手続き代行手数料
⑩雑費	150,000	127,100	22,900	ダム日本査読料、日本工学会会費 防災学術連携体会費等
⑪源泉徴収費	45,000	13,066	31,934	ダム工学会からの諸謝金に対する 源泉徴収税
5. 予備費支出	100,000	0	100,000	
小計 (1～5計)	15,882,000	6,359,727	9,522,273	
6. 繰越金	18,285,130	24,689,198	△ 6,404,068	
合計 (小計+6)	34,167,130	31,048,925	3,118,205	

注1 R2の決算収支 12,698,795 - 6,359,727 = 6,339,068

注2 予算額と決算額の主な差異について別添参照

予算額と決算額の主な差異について（補足説明）

収入の部

1.③シニア会員会費

60歳シニア会員の大幅増による。

2.⑥活性化推進収入

With Dam Night 2020

前年度予算で会場予約のため支弁した還付金（全額）。

3.刊行収入（①～④計）

会誌発行回数4回から2回への変更にともなう差異。

4.図書出版事業収入

「フィルダムの変位計測に関する GPS 利用マニュアル」国際航業より計100部の注文があったため大幅増。

5.①補助金収入

ダムなんでも相談室に河川整備基金より520,000円受領、来年度へ繰越。

支出の部

1.④表彰関係支出

新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、郵送による実施。受賞者の交通費がないため大幅減。

2.刊行支出

31巻1号のページ数増にともなう支出増による。

4.⑦支払手数料

総会会場キャンセル料110,000円のため増。

議案3

令和2年度 会計監査報告

私は、ダム工学会の令和元年度収支決算報告についての監査を行った結果、収支決算報告書は適正であることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和3年 4月14日

ダム工学会
監事

氏名 佐藤俊哉 

令和2年度 会計監査報告

私は、ダム工学会の令和元年度収支決算報告についての監査を行った結果、収支決算報告書は適正であることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和3年 4月14日

ダム工学会
監事

氏名 工藤俊哉 

理 事 選 任 (案)

定款第22条に基づき、令和3年4月27日の第42回評議委員会において、下記の方々が理事に推薦された。

理 事

小長井 一男	特定非営利活動法人 国際斜面災害研究機構 学術代表
川崎 正彦	一般財団法人ダム技術センター 理事長
角 哲也	京都大学 防災研究所 水資源環境研究センター 教授
出水 重光	八千代エンジニアリング株式会社 代表取締役社長
乗京 正弘	飛島建設株式会社 代表取締役社長
石井 秀紀	株式会社ニュージェック 常務取締役 国内技術本部長
石田 裕哉	株式会社建設技術研究所 大阪本社 副本社長
植本 実	日本工営株式会社 流域水管理事業本部 技師長
佐藤 健人	株式会社大林組 代表取締役 副社長執行役員
[新任] 鎌屋 明	日立造船株式会社 機械・インフラ事業本部 執行役員 鉄構・防災ビジネスユニット長
白川 賢志	大成建設株式会社 常務執行役員 土木本部副本部長兼土木部長
[新任] 石黒 幸文	中部電力株式会社 再生可能エネルギーカンパニー 事業推進部長
高田 悅久	鹿島建設株式会社 専務執行役員 土木管理本部 副本部長
多田 隆司	関西電力株式会社 執行役常務
林 俊克	株式会社IHIインフラシステム 技監
日置 秀彦	独立行政法人水資源機構 副理事長
藤田 司	株式会社安藤・間 建設本部 土木事業統括部 専門部長
溝渕 利明	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授
[新任] 道奥 康治	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授
[新任] 古関 潤一	東京大学 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授
村上 章	京都大学 理事・副学長
安田 吾郎	一般財団法人水源地環境センター 理事
柳川 晃	独立行政法人水資源機構 理事
吉田 等	一般財団法人ダム技術センター ダム技術研究所長
[退任] 石川 忠晴	東京工業大学 名誉教授
[退任] 松尾 直規	中部大学 名誉教授
[退任] 鈴木 英也	中部電力株式会社 専務執行役員 再生可能エネルギーカンパニー 社長
[退任] 嶋 宗和	日立造船株式会社 常務執行役員 社会インフラ事業本部長

議案5

監 事 選 任 (案)

定款第22条に基づき、令和3年4月27日の第42回評議委員会において、下記の方々が監事に推薦された。

監 事

工藤 啓 一般財団法人 日本ダム協会 専務理事

佐藤 俊哉 電源開発株式会社 執行役員

令和3年度 事業計画

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和2年度に引き続き、ダム工学研究の向上発展を図ることを目的とし、以下の事業を実施する。また、事業実施にあたっては、WEB会議システムの活用を十分に図ると共に、新型コロナウィルス感染症の状況により、必要な見直しを行う。

1. 委員會等活動

- ## 1) 通常総会

- ## 2) 理事会

- ### 3) 評議委員會

- #### 4) 委員会

- #### ・企画運営委員会

- ## • 編集委員會

- #### • 調查研究委員會

- #### ・災害調査委員会

- ### • 表彰委員會

- ### ・選考委員会

- ### ・技術開発賞

- ・優秀発表賞

の各委員会を開催する。

2. 行事活動

- ## 1) 学術講演会

- ## 2) 研究発表会

- ### 3) 現地見学会

- #### 4) 講習会

- ## 5) ダム工学会賞 表彰式

- #### 6) 活性化関連活動

- 地域活動

- ### ・若手の会

- ・ダムなんでも相談室（PRカード作成）

- “with Dam★Night” 東京、東北、中部・近畿、中国・四国、九州

- で開催。

3. 出版・広報活動

1) 学会誌「ダム工学」

VOL.31 No.2 2021年 9月 発行予定（2021年 9月15日号）
VOL.32 No.1 2022年 3月 発行予定（2022年 3月15日号）

2) ダム工学会ホームページの運用、メルマガ通信の配信

ダム工学会ホームページを一部改修する。

3) 戰略的・効果的な広報の実施

ダム工学会ホームページを活用し、一般の方にダムに関する見学会等のイベント情報をはじめ、ダムの役割などの知識の提供を行う。また、活性化関連活動を通じてダムに関する戦略的・効果的な広報を実施する。

4. 研究活動

1) ~7) の研究部会の活動と共に、交流研究事業に取り組む。

4. 1 研究部会 令和3年度活動内容

1) コンクリートダム研究部会

前年度に引き続き、「ダム管理期間としてのIV期設定」に関する研究について、会誌「ダム工学」へ投稿する。また、新規研究テーマを検討・選定のうえ、分担作業しながら報文のとりまとめを行う。

2) フィルダム研究部会

前年度に引き続き、ダム型式（アースフィル、ゾーン型ロックフィル、表面遮水型）、新規建設・再開発（嵩上げ、耐震補強）、適用した設計基準（構造令制定の前後）、施工方法等を考慮して、代表ダムを選定し、諸情報をとりまとめ、分析する。

3) 地質・基礎研究部会

前年度に引き続き、「ダム（堤体、貯水池周辺斜面）の維持管理・再開発における地質調査に関する研究」について討議し、会誌「ダム工学」への報文としてとりまとめる。併せて、新規研究テーマの検討を進める。

4) 維持管理研究部会

「ダム堆砂の有効活用に関する事例研究」について、令和2年度に実施した「意見公募やダム管理者との意見交換会」の結果なども反映させて、研究成果をとりまとめ、会誌「ダム工学」へ投稿する。

5) 施工研究部会

前年度に引き続き、近年施工された個別ダムの品質管理方法、品質管理データをもとに、「ダムコンクリート強度試験の合理化」の可能性について詳細な討議を行う。

6) ダム技術史研究部会

前年度に引き続き、技術的な分岐点となるダム技術史のとりまとめを行うとともに、出版に向けた調整を実施する。

7) ダム貯水池課題研究部会

前年度に引き続き、ダム再生に関わる様々な情報収集、並びに、ダムの効果の即時的な情報開示と事前放流について検討する「ダム大規模洪水対応WG」の活動を行いながら、会誌「ダム工学」への部会報告を作成する。

4. 2 交流研究事業

「ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究」、「コンクリートダム躯体の健全度評価のための非破壊試験に関する研究」、「ダム下流への土砂供給によって形成される河床地形の物理－生態環境評価手法に関する研究」の3テーマを継続する。

1) ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究

前年度に引き続き、解析モデル数を増やして解析を行い、温度ひび割れ発生確率曲線の作成を行っていく。

2) コンクリートダム躯体の健全度評価のための非破壊試験に関する研究

非破壊試験方法のうち、衝撃弹性波法および赤外線サーモグラフィ法を用いてコンクリートのひび割れ、水平打継部の一体性評価方法を検討する。

3) ダム下流への土砂供給によって形成される河床地形の物理－生態環境評価手法に関する研究

ダム下流河川における土砂水理学的プロセスを経て形成される早瀬・淵・ワンド等の生息場構造を河川管理指標として、生物多様性と砂州フィルタリングによる水質浄化機能を保全する新たな河川管理概念について応用生態工学会と連携しながら検討する。

令和3年度 収支予算

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入の部

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
1. 会費収入 (①～④計)	10,790,000	10,790,000	0	
①正会員会費	3,600,000	3,600,000	0	H30-R1度決算額考慮
②学生会員会費	0	0	0	
③シニア会員会費	190,000	190,000	0	H30-R1度決算額考慮
④賛助会員会費	7,000,000	7,000,000	0	H30-R1度決算額考慮
2. 事業収入 (①～⑦計)	1,920,000	2,425,000	△ 505,000	
①総務小委員会収入	0	370,000	△ 370,000	懇親会中止
②研究発表会収入	200,000	200,000	0	学術研究発表会参加費 第46回現地見学会参加費 (大ダム会議と合同開催予定)
③現地見学会収入	1,215,000	1,215,000	0	大ダム会議負担金除く
④講習会収入	0	0	0	
⑤表彰関係収入	15,000	0	15,000	技術開発賞収入
⑥活性化推進収入	490,000	640,000	△ 150,000	活性化推進小委員会
若手の会	150,000	150,000	0	若手技術者勉強会参加費
ダムなんでも相談室	0	0	0	CMED会補助金除く
北海道ブロック	20,000	170,000	△ 150,000	ダム見学会(支部)参加費
東北ブロック	20,000	20,000	0	ダム見学会(支部)参加費
中部近畿ブロック	150,000	150,000	0	with Dam Night会費
中国四国ブロック	0	0	0	
九州ブロック	150,000	150,000	0	with Dam Night会費 ダム見学会(支部)参加費
With Dam Night 2021	0	0	0	
⑦調査研究収入	0	0	0	調査研究委員会
コンクリートダム研究部会	0	0	0	
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	0	0	0	
維持管理研究部会	0	0	0	
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	0	0	0	
ダム貯水池課題研究部会	0	0	0	
交流研究事業	0	0	0	
3. 刊行収入等 (①～④計)	900,000	1,001,000	△ 101,000	
①会誌一般頒布収入	196,000	296,000	△ 100,000	購読会員会費(2回¥6,000)
②会誌広告料	600,000	600,000	0	会誌広告料(発行回数2回)
③抜刷別刷収入	74,000	75,000	△ 1,000	会誌の抜刷・カラー印刷
④その他収入	30,000	30,000	0	JST特許料・学術著作権複写
4. 図書出版事業収入	30,000	30,000	0	フィルダムの変位計測に関する GPS利用マニュアル、ダムの科学
5. 雜収入 (①～②計)	1,051,000	1,571,000	△ 520,000	
①補助金収入	1,050,000	1,570,000	△ 520,000	大ダム会議負担金(¥50,000) CMED会(¥200,000) 九州地方計画協会(¥800,000)
②受取利息	1,000	1,000	0	銀行利息
小計 (1～5計)	14,691,000	15,817,000	△ 1,126,000	
6. 前年度繰越金	18,350,130	16,425,960	1,924,170	
合計 (小計+6)	33,041,130	32,242,960	798,170	

(単位：円)

支出の部

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
1. 事業支出 (①～⑦計)	10,479,000	10,882,000	△ 403,000	
①研究発表会支出	955,000	955,000	0	学術研究発表会小委員会
②現地見学会支出	1,565,000	1,455,000	110,000	現地見学小委員会 (ダム会議と合同開催予定)
③講習会支出	250,000	450,000	△ 200,000	講習会小委員会
④表彰関係支出	1,186,000	1,210,000	△ 24,000	表彰・選考委員会
⑤広報支出	160,000	120,000	40,000	広報小委員会(HP管理費) HP一部改修費
⑥活性化推進支出	5,580,000	5,870,000	△ 290,000	活性化推進小委員会
若手の会	1,450,000	1,450,000	0	若手技術者勉強会
ダムなんでも相談室	920,000	920,000	0	ダムなんでも相談室経費 PRカード作成費
北海道ブロック	410,000	700,000	△ 290,000	ダム見学会(支部) 経費
東北ブロック	450,000	450,000	0	with Dam Night · ダム見学会(支部) 経費
中部近畿ブロック	520,000	520,000	0	with Dam Night 経費
中国四国ブロック	300,000	300,000	0	with Dam Night 経費
九州ブロック	1,280,000	1,280,000	0	with Dam Night · ダム見学会(支部) 経費
With Dam Night 2021	250,000	250,000	0	with Dam Night 経費
⑦調査研究支出	783,000	822,000	△ 39,000	調査研究委員会
コンクリートダム研究部会	1,000	31,000	△ 30,000	部会 経費
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	30,000	30,000	0	現地調査等 経費
維持管理研究部会	60,000	60,000	0	現地調査等 経費
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	1,000	1,000	0	残高証明発行手数料
ダム貯水池課題研究部会	91,000	100,000	△ 9,000	部会 経費
交流研究事業	600,000	600,000	0	交流研究補助金3テーマ分
2. 刊行支出	2,900,000	2,900,000	0	
①会誌作成費	2,900,000	2,900,000	0	発送料・抜刷別刷料含む (会誌発行2回、委員会4回)
3. 図書出版事業支出	0	0	0	
4. 事務支出 (①～⑪計)	1,260,000	2,000,000	△ 740,000	
①会場費	400,000	420,000	△ 20,000	第31回総会 経費等 (Web活用)
②会議費	50,000	680,000	△ 630,000	総会後の懇親会中止
③印刷製本費	30,000	210,000	△ 180,000	第31回総会 (Web活用)
④諸謝金	135,000	135,000	0	ダム工学 卷頭言・查読料
⑤消耗品費	0	0	0	
⑥通信費	100,000	100,000	0	会費請求書 送付等
⑦支払手数料	150,000	60,000	90,000	WEBバンク・口座振替手数料
⑧旅費交通費	0	0	0	
⑨コンサルタント料	200,000	200,000	0	会計顧問報酬 登記役員変更手続き代行料
⑩雑費	150,000	150,000	0	ダム日本購読料、日本工学会会費 防災学术連携体会費
⑪源泉徴収費	45,000	45,000	0	諸謝金に対する源泉徴収
5. 予備費支出	100,000	100,000	0	
小計 (1～5計)	14,739,000	15,882,000	△ 1,143,000	
6. 繰越金	18,302,130	16,360,960	1,941,170	
合計 (小計+6)	33,041,130	32,242,960	798,170	

R3の予算収支	14,691,000	-	14,739,000	=	¥	-48,000
R2の予算収支	15,817,000	-	15,882,000	=	¥	-65,000

評議委員の紹介

定款細則第6条に基づき、令和3年4月27日の第42回評議委員会において、下記の方々が評議委員に選出された。

評議委員

石田 哲也	東京大学 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授
井根 健	株式会社ニュージェック 執行役員 国内技術本部長代理
加瀬 俊久	清水建設株式会社 土木技術本部 上席エンジニア
[新任] 糸谷 勝彦	三井住友建設株式会社 土木本部 土木統括室 担当部長
黒瀬 高秀	東京電力ホールディングス株式会社 技術戦略ユニット 土木・建築統括室 地盤土木技術グループ マネージャー
桑野 陵一	前田建設工業株式会社 施工支援部 ダム工事担当部長
佐藤 正俊	中部電力株式会社 電力技術研究所 土木グループ長
首藤 祐司	株式会社IHIインフラシステム 理事・鉄構技術室長
鈴木 孝雄	日本工営株式会社 河川水資源事業部 副技師長
高木 秀和	株式会社熊谷組 土木事業本部 ダム技術部 部長
高橋 定雄	一般財団法人 水源地環境センター 水源地環境技術研究所長
高橋 努	八千代エンジニヤリング株式会社 取締役 常務執行役員
立花 猛	株式会社エイト日本技術開発 国土インフラ部 河川・港湾グループ グループサブマネージャー
筒井 勝治	関西電力株式会社 水力事業本部 水力部長
[新任] 片岡 大到	佐藤工業株式会社 大阪支店 川上ダム作業所 所長
箱石 憲昭	国立研究開発法人 土木研究所 水工研究グループ長
[新任] 浜中 直樹	東京都水道局 建設部 施設設計課 課長
[新任] 足達 謙二	独立行政法人 水資源機構 ダム事業本部 ダム事業部長
水摩 智嘉	株式会社建設技術研究所 東京本社 ダム部 部長
[新任] 矢野 真一郎	九州大学 工学研究院環境社会部門 教授
目黒 信晴	飛島建設株式会社 土木事業本部 営業統括部 担当部長
 [退任] 道奥 康治	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授
[退任] 成田 岳人	東京都 水道局 建設部 施設設計課長
[退任] 日野 浩二	独立行政法人 水資源機構 ダム事業本部 ダム事業部長
[退任] 野稻 清	佐藤工業株式会社 成瀬ダム原石山作業所 工事長
[退任] 木元 敏徳	三井住友建設株式会社 土木本部 土木工事管理部 部長

令和2年度 ダム工学会賞受賞者

1. 功績賞

功績賞は、技術賞と同等の業績または論文賞と同等の論文発表等の積み重ねによって、ダム事業の発展やダム工学の進歩に著しい貢献をなしたと認められた個人または団体、あるいはダム工学会の運営に寄与し、学会の声価を高め、その興隆に著しい貢献をなしたと認められた個人または団体に対して授与する。

1) 特別功績賞

ダム工学の進歩及びダム工学会の発展に特に著しい貢献

受 賞 者	所 属
岡本 政明	(株)ニュージェック 特別顧問

2) 功績賞

ダム工学の進歩及びダム工学会の発展に貢献

受 賞 者	所 属
岡野 真久	—
長東 勇	島根大学 名誉教授
高田 悅久	鹿島建設(株) 専務執行役員
森 秀人	(株)建設技術研究所 顧問

2. 技術功績賞

技術功績賞は、ダムの建設・管理等の実務の積み重ねにより、ダム技術の進歩及び発展に著しい貢献をなしたと認められる個人に授与するものとする。

受 賞 者	所 属
岡崎 義和	(株)IHI 中国支社
土肥 肇	大阪砕石エンジニアリング(株)
河合 廣治	(株)IHI インフラシステム 鉄構技術室水門設計部

3. 技術貢献賞

技術貢献賞は、ダムの建設・管理等の実務において、ダム工学の進歩、発展及びダム技術の普及、継承に著しい貢献をなしたと認められる活動を行った団体に授与するものとする。

受 賞 者	所 属
	(今年度は受賞団体なし)

4. 技術賞

技術賞は、ダムの計画、設計、施工、または維持管理等に関して、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業または業務を実施した個人または団体に対して授与する。

事 業 名 ・ 業 務 名	受 賞 者・共 同 受 賞 者
とうま農地防災事業 当麻ダム洪水吐建設工事	国土交通省北海道開発局旭川開発建設部 (株)大林組、西田鉄工(株)、佐藤鉄工(株) N T C コンサルタンツ(株)
中筋川総合開発事業 (横瀬川ダム)	国土交通省四国地方整備局 西松建設(株) 八千代エンジニヤリング(株)
令和元年台風第 19 号における草木ダム洪水調節操作	独立行政法人水資源機構
築川ダム建設 (堤体工) 工事	岩手県広域振興局 清水建設(株)・(株)鴻池組・(株)平野組特定共同企業体 西田鉄工(株)、丸島アクアシステム(株) 日本工営(株)
最上小国川流水型ダム建設事業	山形県 前田・飛島・大場特定建設工事共同企業体 飯田鉄工(株) (株)クレアリア、(株)建設技術研究所
千本ダム堤体補強工事	松江市上下水道局 (株)大林組 (一財)ダム技術センター、中電技術コンサルタント(株)
ナムニアップ 1 水力発電プロジェクトにおける RCC ダム建設	関西電力(株) (一財)電力中央研究所 (株)大林組、(株) I H I インフラシステム (株) K A N S O テクノス、(株)ニュージェック

5. 論文賞

論文賞は、ダム工学会が刊行する論文集「ダム工学」及び、これと同等の会誌にダム工学に関わる独創的な論文を発表し、ダム工学における学術、技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた本会会員である個人または本会会員を含む団体に対して授与する。

	論 文 名	受 賞 者
1	(II類 コンクリートダム部門) コンクリートダム施工時の温度応力に及ぼす自己収縮ひずみの影響に関する研究	佐藤 英明 宮澤 伸吾
2	(I類 企画計画部門) カスケード発電ダム群のモデル化と洪水時操作の最適化の検討	西原 克哉 川崎 昭如
3	(IV類 維持管理部門) 長時間アンサンブル降雨予測を用いた大型台風接近時に おける効果的なダム事前放流方法の検討	木戸研太郎 角 哲也 道広 有理 木谷 和大
4	(V類 その他部門) 東南アジアにおける水力 IPP プロジェクトのリスクマネジメント ～ラオス国ナムニアップ 1 プロジェクトにおける水文・地質・移転リスク～	筒井 勝治 村上 嘉謙 喜多 伸明 富岡 健一
5	(II類 コンクリートダム フィルダム部門) ダムの動的解析における堤体と基礎地盤の相互作用に関する理論的解釈および考察	永山 功

6. 技術開発賞

技術開発賞は、ダムの調査、試験、設計、施工または維持管理等において、創意工夫に富む技術を開発実用化し、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた本会会員である個人または本会会員を含む団体に対して授与する。

	技 術 開 発 件 名	受 賞 者
		(今年度は募集していない)

7. 著作賞

著作賞は、ダム工学を体系化し、またはダム工学における新しい分野を集大成し、ダム工学、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた工学的な著作の著者、またはダム工学、ダム技術の意義あるいはダム技術者の活躍を広く世に紹介することに著しい貢献をなしたと認められた一般的な著作の著者に対して授与する。

著作名	受賞者
ダムと緑のダム	東京大学名誉教授 虫明 功臣 福島大学名誉教授 東京大学名誉教授 太田 猛彦 水源地環境センター 高橋 定雄 水源地環境研究所長 東亜建設工業 顧問 井山 聰 政策研究大学院大学 教授 小山内 信智 水源地環境センター 理事 安田 吾郎
治水の名言 ～水災害頻発、先人の知恵に学ぶ～	風土工学デザイン研究所 理事長 竹林 征三

令和2年度 ダム工学会技術賞 受賞ダム



当麻ダム



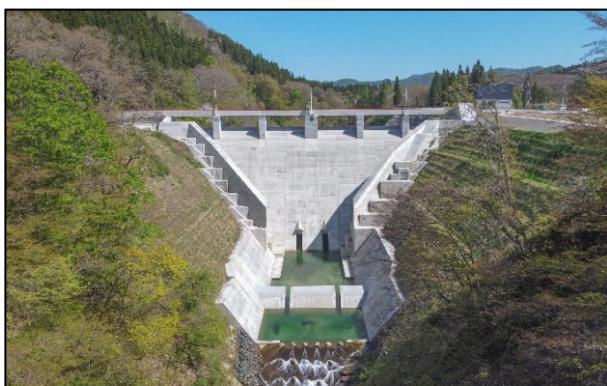
横瀬川ダム



草木ダム



築川ダム



最上小国川ダム



千本ダム



ナムニアップ1ダム

幅広い分野の会員からなる一般社団法人ダム工学会は、工学の総合的な発展に貢献しています。



事務局 〒110-0008 東京都台東区池之端2-9-7
池之端日殖ビル2F
TEL.03-5815-4161 FAX.03-5815-4162
URL <http://www.jsde.jp/>